

1. ICTを利用した指導実践や研修の工夫

【指導実践】

○iPad を使用した指導

- ・平仮名・片仮名・漢字の字形を整えるトレーニング
→指書きで何度も練習でき、65点以上で(並)、85点以上で(美)の判定が出るので、子どもたちは夢中になって取り組んでいる。
- ・漢字がパーツの組み合わせから成っていることを理解させるため、パーツのカードを組み合わせさせて漢字をつくるアプリを指導に用いた。
- ・計算学習、地図、漢字学習、画像検索、意味調べ、youtube(歌)を利用した吃音指導
- ・適切な自己認知を促すための振り返り場面での活用(動画・写真)
- ・録画機能を使い、発音や口腔内の確認
- ・タブレット端末や外付けキーボードを用いて、各種代替入力(音声入力・ローマ字入力・フリック入力等)を指導した。
- ・読み書きが苦手な児童の学習をサポートまたは代替するための活用
(平仮名・カタカナ・漢字・読書力サポート・デージー・音声入力など)
- ・学習意欲の向上を図るための活用(選択問題・レベルの見える化・書き直しが容易・多様な入力方法・ロイロノートの活用・iMovie の作成&活用)
- ・学習の足跡を残す(スクショ・PhotoMemes)
- ・iPad の操作について、指示を守って使う(指示理解や自己コントロール)
- ・デージー教科書を使って国語の単元の予習をし、内容をある程度知った状態で授業に取り組めるようにした。
- ・映像遅延アプリを利用した器械運動指導時の再構成への支援(肢体)

○パソコンを使用した指導

- ・パソコンでの文字入力(授業の感想や作文)
- ・指導で使うワークシート全般を Word や Excel で作成し、生徒が入力
- ・テストでパソコン入力する環境作りを在籍校に提案。
→ 今年度は、見送りになったが、合理的配慮の啓発に努めることはできた。
- ・テストでパソコンによる入力ができるよう、本人と細かく相談し、その結果を在籍校と共有。テストで可能な範囲で実践していただく予定。その際、問題用紙のフォントや大きさ、解答用紙の枠などについても、本人がより見やすいものを試し、在籍校に協力を依頼した。
- ・音声読み上げ(Word や Excel の読み上げ機能、Voca-Pen のテスト利用)
- ・パワーポイントで、コグトレの認知作業トレーニング用のスライドを作り、指導で使っている。

○家庭や学校に向けたもの

- ・教材アプリや授業の動画配信の紹介。授業の動画は、家庭で自分に合ったペースで進められ、何回も

視聴できる学習スタイルを紹介。

- ・通級に送迎できない保護者の場合、在籍校とオンライン会議システム(ZOOM)を繋ぎ、遠隔での指導を行った。
- ・保護者の指導参観での活用(ZOOM を使って、別室で指導を参観する。)
- ・本人・保護者にデジ教科書の家庭学習を勧め、在籍校との橋渡しをした。

【研修の工夫】

- ・地区講習会をオンライン(ユーチューブ視聴)で開催
→遠方の地区の方の参加も可能となり、好きな時間に何回も視聴できる等多くのメリットがあった。
- ・夏休み中に、ズームやYouTubeを利用した講演に参加。校内の先生方にも視聴してもらった。
- ・Zoom の活用 : 地区講習会開催、地区講習の準備連絡、言語研修会
校内研修(個別指導を別室にて参観)
- ・ICT の利用 : 研修資料の配布、情報交換
- ・ZOOM の使い方や、各種 ICT 機器の使い方を理解するため、勤務時間外に自主研修を開催した。
- ・通常の指導や遠隔指導を録画し、教室内で共有した。
- ・リモートでの指導公開
- ・いつでも授業を見合える研修体制と関係作り。
- ・校内研修において、大研時、3 蜜を避けるため、教室に入る職員を二つに分け、教室に入って参観する時間と、隣の教室でモニタを見ている時間に分けて教室にいる人数を減らす準備をしました。

2. これからの定例研、地区講習会・東海四県大会開催に関する意見

【意見・要望】

- ・地区講習会で充実した研修が行えていると思うので、定例研の回数が少なくなっても、問題はないように思う。
- ・オンライン研修を今後も取り入れていくことで、経費削減にもなると思う。
- ・全体会と講演は オンラインでも できる
- ・使用料がかかっても、大きな会場で講師の先生のお話を聞きたい。
- ・ワクチンができて感染が収束する見通しがつけば、開催してほしい。
- ・定例研の講演は動画配信を依頼していただけるものならお願いしたい。
- ・コロナ対策を考えると、リモートでの開催はありだとは思いますが、静言研の運営上の諸連絡や事務手続きの確認などを考えると、ますます担当書の負担が重くなる気がする。
- ・地区講習会レベルではオンライン研修もありだと思うが、定例研や東海四県規模となると、管理やアクセス条件など、解決対策しておく課題があり、慎重さを要する。
- ・資料配付、ダウンロードなどの提供に当たっての事前チェックが必要(著作権、守秘義務など)
- ・コロナ禍での新しい研修の形が確立されつつあるので、今後の研修会や講習会も世の中の動向に合わせて臨機応変に対応していけたらいいと思う。
- ・集まるのが難しい場合、可能な限りリモートで行えると良い。難しい場合は、必要なくなった会場費を

使って、リモートシステムを用いた研修環境を整備してくれる業者に頼むなど、できる限り開催する方向にできると良い。

【オンラインの場合】

○これまでの成果○

・YouTube を利用した動画配信の場合、自分が見たい時間に視聴できることがよかった。

○経験した上での課題○

・複数の学校が担当になった場合の役割分担の難しさ

（複数担当があっても、一つの学校で行ってしまうことが多く、負担に偏りがある）

・オンラインへの参加率の低さ（Zoom 研修会に参加する予定の方が参加されないことが多かった）

【東海四県大会について】

・東海四県大会へのご協力よろしくお願いします。

従来通りの方法での開催（規模は状況により縮小で）のつもりで準備していきます。

・著名人の講演会

○宮口幸治先生「コグトレ」「ケーキの切れない非行少年たち」・・・管理職や万人が聴きたい方。

○柳家家禄・・・当事者、落語家。「僕が手に入れた発達障害という止まり木」

○著名な当事者がいいなと思います。

○スーパーレジリエンス、スーパーポジティブで乙武洋匡氏もいい。

▼あまりマニアックには不向きだと思います。

▼スーパーアスリートも興味ない人には興味ないし、目の前の子どもとはかけ離れすぎている。

▼中邑賢龍先生は話が万人にはぶっ飛びすぎてる。

▼絵本作家もちよっともったいない。

【その他】

今年度の予算残の使い方の提案として…

補助金、オンライン研修に必要なものとして

・(ZOOM)の年会費(¥20000)を必要な地区に。

・事務局のパソコンなどの充実

・オンライン研修を実施するにあたっての研修費

会費残について

・R3 継続会員にスライド(減額)してほしい。または、今年度中に返金(図書カードなど可能な形で)

・R3会費集めなくて採算が合うなら集めない。それによって、無料で入会する人が増えるかも。ただ、R4 に再徴収+東海大会参加費によって減少が予想される。

R3会費集める。手間だが、減額の措置を取る。①全員、②継続会員のみ。②のほうが、説明がつく。

・東海四県大会は、定例研を兼ねているので、参加費をまた徴収するのは、納得いかない。何とかならないか。前回、「参加しなくていい?」と尋ねられた経緯もある。そういう人はほっとけばいい?